

ひので映画大使最新版

第21回映画大使「コクリコ坂から」

期 日 平成23年7月14日(木)

場 所 ワーナー・マイカル・シネマズ日の出

【ストーリー紹介】

戦後、復興を遂げた日本は交通地獄や公害が叫ばれる中、東京オリンピックの開催を翌年に控えていた。希望と不安が混在しつつも、人間が力強く生きていた時代―。

横浜のある高校では明治に建てられた由緒あるクラブハウス「カルテラタン」の存続を巡って学園内で紛争が起きていた。そんな事件の中で、16歳の松崎海と17歳の風間俊は出会い、心通わせていく―。



(C)2011 高橋千鶴・佐山哲郎・GNDHDD1

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。



今回はご覧の皆さんに参加していただきました。

～映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです～

▶ 映画大使の「第一声！」

- ・上を向いて歩きたくなる、スタジオジブリ最新作！
- ・男女の微妙な心情の変化や、丁寧な描写はジブリならではの！
- ・あの時代へタイムスリップしたくなる！

▶ 映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

「ジブリの中では、すごく久しぶりにすっきりした終わり方で、心が和やかになりました。2人の仲どカルチュエタン両方すっきりしました。私はジブリがすごく好きですが、戦後から東京オリンピックまでの様子やレトロな感じや、描写など、実写に近く、ジブリならではの映像でした。」

Bさん

「私が生まれた年が舞台でしたので、感慨深かったです。舗装されていない道路や、木造の家、木の電信柱、電杆だったり、懐かしかったし、細かな描写まできちんと描かれていましたね。爽やかな結末が良かったです。」

Cさん

「私も懐かしく感じました。純粋な恋愛の中にもドキッとさせられたり、切ない部分もあって涙がでそうになりました。でもリアルでしたね。子供にも観せたい映画だと思いました。すっきりした結末がよかったです。」

Dさん

「ジブリ作品はほとんど観ていますが、宮崎吾朗監督については、前作であまり良い感想を持てなかったのですが、ここから」には期待と不安がありました。実際観ると最初から良い印象で作品に入る事が出来ました。宮崎駿のようなスペクタクルは無く、どちらかと言うと地味なテーマなのですが、非常に丁寧に作られていて、心がこもって感じました。時代背景も懐かし、生活感も思い出させてくれて、観ていて心地よかったです。後味も良く、人に映画です。」

Eさん

「当時、私は小学生でしたが、その頃は新しい物を追いかけていた時代でした。この映画の中では、古い物も大切に描かれていましたね。登場人物達もあまり力まなかつたり、自然体で流れていったというか、爽やかに。若いからというのではなく、常に前向きに捉えた生き方っていうのも凄いと思ったし、若い子はいいなってなくて、自分自身もいつになっても、前向きに生きていかなければいけないと感じました。今回、思った以上に爽動した作品でした。」

Fさん

「細かい描写や時代背景、私達が生きた時代そのまが出ていました。この時代、私達はいつも手で生活して超現代的な今とは違う良さがありました。物語も勿論訴えるものがあり良かったです。自分自身の生きた証みがあり、とても共感できました。」

Gさん

「私もあの頃は主人公くらいの年齢でした。忘れていた「良さ」というのを、タイムスリップしたみたいに、本当に涙が思い浮かべました。あの頃は本当に物が無い時代で、それを手に入れたいと夢見てた時代でしたが、人間だったり、とっても幸せな時代でもありました。物があふれている現代、もっと大事にしなければいけない物があるのかなって思います。上を向いて歩こうとか、懐かしい曲も良かった。私の主人は横浜出身ですが、コクリコ坂って聞いたことがありませんが、実在するのでしょうか？(実在はしませんが、イメージの元となる坂は横浜にあるよ)みにコクリコとはフランス語で「ひなげし」だそうです)氷川丸の景色とか今とは随分変わっていますが、懐かしい雰囲気あって、思い出が甦って嬉しかったです。」

▶ 作品の内容 (印象に残ったシーンなど)

・以前、「ALLWAYS 三丁目の夕日」という映画がヒットして、古き良き時代の日本が注目された時期がありました。この映画を観た時、すごく懐かしがっていました。この映画も薦めてみたいと思います。ちょっと車で送ってくれる、人と人の繋がり、触れ合いが良い時代だったんだと、思いました。そういう事をちょっとずつ思い出させてくれるジブリ作品の特徴だと思います。

・若い世代も、戦争について学校などで学んでいるし、昭和の雰囲気もある程度知っていれば、十分理解出来る親子などで作品の話が出来ると思います。

・キャラクターが皆魅力的でした。ジブリ作品は本当に絵が綺麗ですね。

・今年には震災がありました。あれだけ大きな被害が出て、それまでの生活が全部無くなってしまった人がいる。便
また揃えるだけが復興ではなく、優先して取り戻さなければならないものっていうのは、前向きな気持ちや人間性
としました。

・今は人間関係が希薄と同時に、情報があふれてて、それに振り回されたりする事が多いですが、この作品の時
情報よりも「情」によって人は繋がっていました。繋がってないと生きていけなかった。一生懸命は当たり前の時
人のために皆生きていた時代でした。

・主題歌もよかった！

▶ まとめ

この映画は、「上を向いて歩こう」というキャッチコピーのとおり、登場人物すべてが「上を向いて」おり、時代背景
でしょうが、皆が「元気で前向き」でした。古き良き時代、激動の時代でもあった「昭和」が終わってもう20年以上
スタルジーに浸れる世代、こんな時代があったんだと思う世代、様々な印象を持つと思いますが、どの世代が見
はあまり見られなくなった「心地よい人間関係」に魅力を感じる事と思います。

文化として確立されている日本のアニメーションですが、細かい人間描写やきちんと描かれる背景はジブリ作品
です。そういう「リアル」がいわゆる物語とその時代をひきたてるのでしょうか。

▶ [関連ページ: ひので映画大使のトップに戻る](#)

問い合わせ先: 教育委員会文化スポーツ課社会教育係

電話042-597-0511(内線544)

◀ [前のページへ戻る](#) | [ペ](#)

〒190-0192 東京都西多摩郡日の出町平井2780番地 電話 042-597-0511(代表)

サイトマップ

Copyright © 2011 Hinode Town All Rights Reserved.